

函館空港の
30年後の将来イメージ

道南・東北No.1の広域周遊観光ゲートウェイ



チェックインロビー

先進機器導入による
FAST TRAVEL 推進



到着エリア

函館のレトロモダンな
コンセプトとした到着ロビー

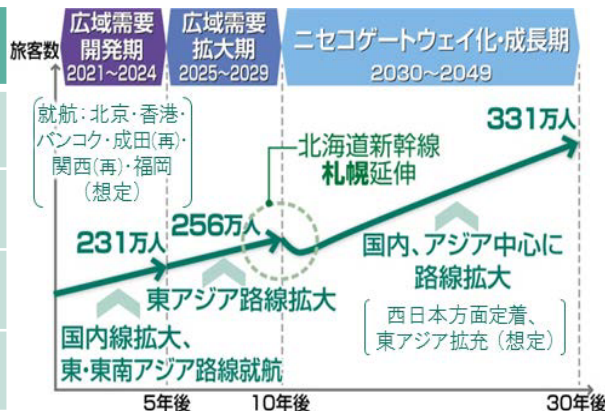
駐車場の容量拡大

出発便・到着便を同時に3便
受入れ可能な国際線ビル施設

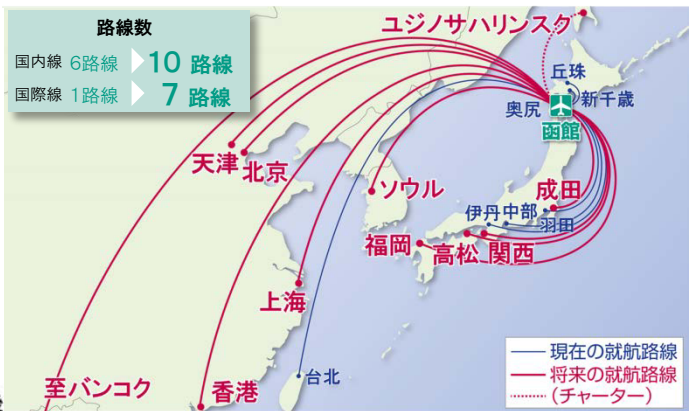
■ 函館空港の目標値

	2017年度	2024年度 (5年後)	2049年度 (30年後)
旅客数	179万人	231万人	331万人
国内線	160万人	184万人	236万人
国際線	19万人	46万人	96万人
貨物量	69百トン	64百トン	74百トン

■ 函館空港の成長ステップ



■ 函館空港のネットワーク(30年後の想定)



(※四捨五入により合計が合わない場合がある)

(※現在の就航路線は季節運航便を除く)

航空ネットワークの充実

■ 周遊観光需要創出・オープンジョー利用の促進による路線の拡大

- 東日本周遊観光需要を創出し、東アジア・東南アジア路線を誘致
- 季節繁閑差等のエアライン負担を低減し、オープンジョー・新規就航を促進する料金体系を導入
- 受入環境整備による新千歳空港の需要取込

■ 新幹線との接続強化・周遊エリアの拡大

- 新幹線との接続を強化し、東北とのアクセスを強化
- DMO・交通事業者と一体で、東北との広域観光需要を創出し、函館の通年観光需要を底上げ
- 新幹線札幌延伸後のニセコ、道央圏への観光流動を促進



地域との連携・地域共生

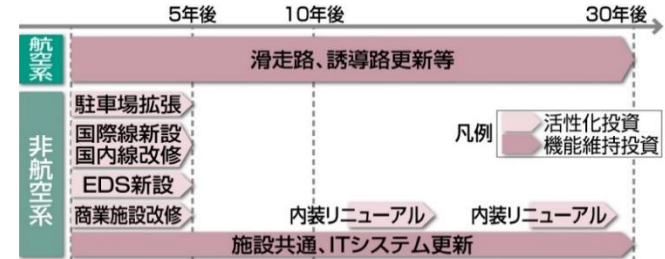
■ 空港周辺地域への環境対策と活性化

- 騒音に配慮した料金体系を導入し、環境対策を進展
- 空港振興・環境整備支援機構による助成制度を見直し、助成対象の拡充や要件緩和など使い勝手のよい仕組みに改善
- 地域と連携し、函館と道南圏の魅力発信・向上を促進
- 函館観光プラスワンのコンテンツPRや体験型観光商品づくりにより、通年観光や滞在型観光を促進

空港施設運用

■ 設備投資戦略(30年間の投資総額(想定)約412億円)

- 国際線旅客ビル施設の容量拡大等のための建替え、国内線旅客ビル施設との一体化、駐車場拡張を最優先で実施
- 国際線旅客ビル施設の建替えに合わせて、混雑解消や商業エリアの大幅拡充を行い、道南・東北No.1の国際線受入環境を5年以内に整備



■ エアライン受入環境整備

- 国際線の出発・到着便を、同時に3便受入可能な施設を整備
- 国際線旅客施設面積を、現在の5倍に拡張
- 保安検査場の拡張、先進機器導入によるFAST TRAVEL推進

■ 空港全体の函館ショーケース化

- 「函館レトロモダン」を空間コンセプトとした旅客ビルを新設・改修
- 商業エリアに、函館の街歩きを想起させる回遊型の商業施設を配置
- 到着ロビーに、函館の魅力を発信・PRする観光コンシェルジュを整備

＜30年後の施設等配置図(案)＞

＜商業エリア＞

